

[令和 1年 6月 定例会-07月01日-05号]

- 保育事業所周辺の道路と公園整備について
- 避難行動要支援者の避難行動支援について

◆19番（山下いづみ 議員） 私は、さきに通告してあります保育事業所周辺の道路と公園整備についてと避難行動要支援者の避難行動支援についての2項目について質問をいたします。

まず初めに、保育事業所周辺の道路と公園整備について伺います。

保育園や幼稚園の園児たちが自動車などによる交通事故に巻き込まれるケースが発生しています。公益財団法人交通事故総合分析センターの集計によると、昨年までの5年間に541人がけがをしています。近年では、親の就労形態の多様化を受けて保育ニーズが高まっており、さまざまな保育事業所ができています。その中には、近所の公園等を屋外遊戯場としているところもあります。屋外で遊ぶことや散歩をすることは、園児の成長には欠かせないものであります。園児たちの安全が確保されることにより、保育士が安心して働き、保護者たちが心配することがないように、保育事業所周辺の道路と公園整備は必要不可欠であると考えます。

そこで、以下質問いたします。

（1）道路整備について、(ロ)散歩コースの把握と安全点検はどのように行っているのでしょうか。(月)危険性のある箇所の改善計画と実施状況はどのようでしょうか。早急に対応すべきであると考えますが、いかがでしょうか。

（2）公園整備について、(ロ)代替遊戯場として利用されている公園の清掃、整備点検はどのように行っているのでしょうか。(月)利用されている公園は、市が主導して安全・衛生管理を行ってはどのようでしょうか。

次に、避難行動要支援者の避難行動支援について伺います。

災害が発生した際、またはおそれがあるときに、高齢者や障害のある人など、自力で安全な場所に避難することが困難な人たちがいます。日ごろより避難支援体制を整えておくことが必要であります。富士市では総合防災訓練が実施され、避難行動要支援者支援計画も策定されています。防災訓練、避難行動要支援者支援計画が有用であるよう、以下質問をいたします。

（1）避難行動要支援者の把握状況はどのようでしょうか。各要支援者の状況に沿った避難行動支援はどのように行われるのでしょうか。

（2）避難支援者はどのような人たちでしょうか。また、支援者に対して、説明や研修などを行っているのでしょうか。

（3）避難行動支援制度の周知、活用は十分になされているのでしょうか。避難行動支援制度とは、災害が起きたとき、ひとり暮らしの高齢者や障害のある人たちが地域の中で手助け（避難支援）が受けられるように、平常時から要支援者本人、地域の人たち、自治体が協働しながら、体制づくりを進める制度です。

以上2項目7点を伺い、1回目の質問といたします。

◆19番（山下いづみ 議員） 1回目の答弁をいただきました。また2回目、引き続き質問していきます。

まず初めに、保育事業所周辺の道路と公園整備のうち、道路整備についてですが、散歩

コースの把握は、それぞれ複数の先生方が確認をして決定してやっている。これは公立、私立、小規模、家庭的保育、全ての保育事業所、保育ママとかもでしょうか。

◆19番(山下いづみ 議員) 先ほど答弁いただいたときには、公立のところはとても丁寧に早急にやっていただいたということですが、富士市には私立に通っているお子さんたちもいますし、そちらのほうも確実にお願いをして、また、富士市ではどんな状況があるのかということ把握していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

◆19番(山下いづみ 議員) そのようにいろいろと聞き取りをしたときに、安全面というところでは、特にどのような発見がありましたか。

◆19番(山下いづみ 議員) 今、分類されたところをまた早急にいろいろ協議してやっていくという答弁もありましたので、ぜひお願いいたします。

私も何件かお聞きしたところ、今言った道路上の交差点、車両、その他の危険箇所、ここが心配だというお話も聞きましたけれども、それ以外に、例えば余り人けがないところに小さい子を連れて行って、もし不審者とか知らない人とかがいたときに、そういう面の安全面はどうなのかということを感じるがあった、そのようなこともお聞きしました。ですので、1年に1度でも、安全点検はどうですかと聞くことによって、保育事業所周辺の道路の安全、また、環境的な安全ということもわかってくると思いますので、ぜひ、これは連携して継続をしていくということですので、引き続きよろしくお願ひいたします。

次に、公園整備のほうなんですけど、代替遊戯場として利用されているところの点検はどうでしょうかということですが、ここに上がりました2カ所については、点検をして大丈夫だったのか、そして、今後ともちゃんと管理をしていかれるのでしょうか。

◆19番(山下いづみ 議員) また、そのほかに、今、富士市には企業主導型保育事業所とかもありますけれども、そういうところも含めまして、園庭のないところというのはありますでしょうか。

◆19番(山下いづみ 議員) そうしますと、企業主導型保育事業所も含めていきますと、代替として通常使っている公園というのがもう少しあると思うんですけど、そちらの把握はどうでしょうか。

◆19番(山下いづみ 議員) 富士市は、もちろん市長を初めとして、子育てということにとっても力を入れているというふうにはおりますけれども、その1つとして、待機児童ゼロを目指してということに取り組んできた。富士市は待機児童ゼロを目指す中で対策を2つ掲げていますけれども、それは県内初の試みで、幼稚園内で小規模保育事業所を開所、それともう1つが、企業主導型保育事業所の開設を支援する。この2つに富士市として力を入れているわけです。ですので、今、県のほうでということはお聞きしましたけれども、それも富士市内にあり、富士市に住んでいる子どもたち、家族がそこを利用しているとなりますと、富士市のほうでも、園庭があるのかなのか、実際にあっても、近くのところに散歩に行く、公園に行くといったら、そういうところもしっかりと把握する必要があると思いますが、いかがでしょうか。

◆19番(山下いづみ 議員) ぜひ確認をして、多様なさまざまな保育を展開するところが利用する公園、散歩コースを全て点検して管理をしていていただきたいと思います。

そして、利用されている公園は市が主導して安全・衛生管理ということですが、こここのところでは、愛護会とも連携をして、いろいろ協議して対応していると言っておりますけれども、実際問題、愛護会でそういう話をして、早急に動けるとか、人材が不足していないとか、もっとほかの人材がいたほうがいいのかというような状況はあ

りませんか。

◆19番（山下いづみ 議員） 市のほうもフォローしていただけるということで、私が聞いたところでは、保育事業所と地域のボランティアで公園を管理している人たちとの話がちょっとうまくいかなかったようなんですが、そういうときには、ぜひ、市のほうでフォローして、どういうふうにきれいに早急にできていくのかということをやっていたきたいと思います。

今、このように、保育事業所周辺の道路と公園整備ということになりましたけれども、今、保育ニーズは、私立、市立、大きい、小さい、企業主導型といろいろな形がありますが、どの場所に行こうとも、散歩をするということ、また、公園で遊ぶということは、子どもたちの成長発達には欠かせないものであり、それは市もフォローするところはしっかりとフォローして行っていただきたいと思います。

例えば代替で公園を使うよというところは、実はそれは補完で使うというよりも、公園を使うとか散歩をすることが園外活動の場であるということ。そして、保育ということは、そこから一步外に出るときに、地域の皆さんに会うとか、一番最初の市長の話にもありましたけれども、いろんな自然を見るとか、植物を見るとか、子どもの成長にとっては大切な地域資源を利用しているということです。そしてまた、その状況のところに行ったときに、公園といいますと、保育の狙いを全て充足できると言われています。実際にそうだと思いますけれども、例えば公園に行けば安全である、また、近くに住んでいる人と知り合いになって、いろんな世代の人とお話ができる、自然に触れることができる、そして、健康維持、体力をつけるということで、大切だと思います。そのところで、いろんな形の公園がありますけれども、もし愛護会の方が高齢化になって行き届かないということがあれば、ぜひ市のほうで率先して、何か協力体制をつくっていただきたいし、また、保育事業所のほうで何か課題、問題があるならば、聞いてという形でやって行っていただきたいと思います。

こうなっていくと、保育事業所の近くの道路、公園というものは、その地域全体を保育事業所たちの園庭として見るぐらいのものだと思います。そして、それは大きなところよりも、小さな事業所ほど、そういうふうな形になってきております。また、今回の質問で、危険ということはもちろんですが、道路をしっかりときれいに安全・安心に保つということと、公園をしっかりときれいに安全・安心に保つということは、富士市としても保育の質を維持させる、充実させるということにつながっていくと思いますので、ぜひ今回要望しましたことを引き続きお願いいたします。

次の質問に行きます。避難行動要支援者の把握状況になっていきますけれども、このところで、名簿というのは、まちセンで保管しているものと、キットを申請した人の名簿はまた別に町内会長とか民生委員の方が持つものと、富士市には2種類の名簿リストがあるということでしょうか。

◆19番（山下いづみ 議員） 2種類あるということで、大災害は起きないほうがいいんですが、例えば大災害があったときに開示するというものがありますけれども、開示したときに、しっかりとそれが活用されなければ、必要な支援がされなければいけないと思いますけれども、開示をした場合、支援をすべき人たちへの活用方法ということはしっかりとわかるようになっていきますか。

◆19番（山下いづみ 議員） キットを普及して、町内会、民生委員の方に配付する名簿を見て、日ごろからの顔の見える支援とか、実際に何かがあったら支援できるというよう

な活用もわかりやすくなっているんじゃないでしょうか。

◆19番（山下いづみ 議員） 部長も状況をしっかりと把握しているということがわかりました。

私も何人かに聞いたときに、しっかりとキットをPR、広報してということは聞いて、それをやるようにしていますけれども、その後はどうなっているのかわかりません。だから、その後の活用の仕方がちょっとわからないという方もいたので、それはもったいないなというふうに思いました。今実際にどんな状況かということで、部長自身ももう少し工夫がとおっしゃっていましたので、せっかくキットがありますから、ぜひ活用できるようにしてください。ここのところで、PR、パンフレットとかも工夫をしていくということでしたので、よろしくお願いします。

そして、避難行動要支援者の避難行動支援について、富士市でどういうふうになっているのか、もう1度しっかりと調べようと思って、いろいろ見ましたけれども、そのときに、計画があり、支援することがあり、実際に行動するところがどういうふうにつながっているのかなと見ましたときに、例えば富士市の場合、災害・緊急支援情報キットは福祉事業として福祉全般のところに入って、避難行動要支援者支援計画も福祉全般のところに入っています。

それでは実際に、そういうものをどういうふうに活用して実際に生かすことができるのかということになってきますと、防災危機管理課、各種自主防災会、富士市総合防災訓練計画書にも避難行動要支援者支援訓練とありますけれども、福祉と防災の別々の課が対応となっていますけれども、その連携—計画を立てて、キットがあつて、それを市内全体、そして、各地域で実践をするというところで、ちゃんとした連携というのとはとれているのでしょうか。

◆19番（山下いづみ 議員） そういう意思もあり、ちゃんと話をしていくということは聞きました。

例えば、富士市では福祉総務課、防災危機管理課というところを全て含めて、他市では、防災危機管理課、もしくは防災対策課、防災対策室で全てのものが市民に伝わるようになっているんです。富士市でいったら、支援の仕方としてはキットのこと、ほかのところであつたら、支援者は要支援者にどういうことをすればいいんですかという質問項目を全部防災危機管理課のほうで答えて、何かありましたらこちらのほうへとなっているんですけれども、富士市としたら、福祉に関すること、例えば、関係者からの質問、要支援者からの質問、避難支援者からの質問—こういうことが心配だ、これがどこにあるのかわからないというような細々とした質問は、これからは全て福祉総務課、福祉のほうで担当をしていくということでもよろしいでしょうか。

◆19番（山下いづみ 議員） 富士市では、そのように福祉と防災の両立でやることはやり、しっかりと連携をとってやっていくということで、見落としがないように、これからはよろしくお願いいたします。

そして、支援者に対しての説明、研修では、町内会連合会、民生委員の総会とかで説明をしているということでしたけれども、今最初の話でも、近くの人がいつも顔見知り支援をすること、手助けすることが大切だと。私ももちろんそう思いますけれども、そのところで、町内会連合会、民生委員の総会だけだと、普通に暮らしている人たちに、こういう支援とか手助けができますよということが行き届かないのではないかなと思いますけれども、そちらのほうはどう考えておりますでしょうか。

◆19番（山下いづみ 議員） ぜひ工夫をお願いします。実際に地域に暮らしていて、そこで町内会長、民生委員の方がこういうリストを持っていて、話も聞いている。その人たちが地域の近所の人たち、何十軒、何百軒あるところが全部できるのかということ、全くできないし、実際問題、1人1人の状況は本当にわからないです。ですが、しっかりと説明をして、キットもあると言いながらも、それが周知されていないということは実にもったいないことですので、工夫ということで、どういうふうに工夫をしていくのか、幾つか案があるということで、よろしくをお願いします。

また、このところでは、前、防災のことで、中高生の活用ということも話したことがあるんですが、実は回覧板だけではなくとも、近所に暮らしている中学生とか高校生、こういう学生たちにも説明する機会というのを設けることがとても効果的ではないのかなというふうに思います。例えば普通の防災訓練ですと、小学生とか中学生は、まず学校から無事に自分たちの町内の避難場所にちゃんと行くという訓練はなされているんですが、その後、中学生、高校生、場合によっては小学生が周りの高齢者の人とか近くの人と一緒にあって助けるということは多々ある、十分にあると思うんですが、学校への説明とかはどのように捉えていますでしょうか。

◆19番（山下いづみ 議員） これから工夫で、町内会、民生委員の方に話をするというときのアイデアとしたら、特に関心を持って、もっとしっかりとやっていきたいよという町内会にまず行って、町内会の人たちに学生も呼んで話をするということもいいと思いますし、また、学校のほうにも、こういう説明をしたいということをご協力いただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

◆19番（山下いづみ 議員） また、支援者に対しての説明や研修というところで、他市のものをちょっと見て、わかりやすいなと思ったのがあります。例えば、支援としても、一くくりできずに、いろんな方がいると思いますけれども、高齢者の75歳以上のひとり暮らしの人への支援のポイントであるとか、要介護3以上の人への支援のポイントであるとか、体が不自由な人への支援のポイントであるとか、簡潔にわかりやすく、冊子になっているものがありました。ただ、これは必ずしもそのとおりというよりも、何か手伝いとか支援をしたくても、どうしていいのかわからないよといったときに、こういう冊子がありますと、同じ支援をするというイメージが湧いてくると思うんです。そういうことならできるから、もう少し支援の仕方を教えてくださいというふうになると思いますので、こちらのような支援の方法を冊子で数ページ作成をして、これらも広めていくということがよいと思いますが、いかがでしょうか。

◆19番（山下いづみ 議員） キットでそれぞれに合ったものというのはとてもよいと思います。例えばキットの中に、特に自分が支援してもらいたいことを書く場所があり、実際にというところは、緊急のときに見ますから、余りにも慌てて見たときにわからないということもある。そういうところも、平常時、申請するとき、簡潔にわかりやすくというところはぜひアドバイスというか、お話をしながら、その欄は特に大切に記入していただければと思いますので、よろしくをお願いします。

そして、キットですが、例えば薬を飲むとか、もう飲まなくてもいいとか、状況というのはよく変わると思うんです。そうすると、1度申請してそのままということになっているのか、変わるごとにしっかりと内容を変えるようになっているのかということはいくらとできているのでしょうか。

◆19番（山下いづみ 議員） キットのほうは、とにかく薬とかは、飲まなくてもいいの

を飲んで余計大変なことになるということがありますから、内容変更は必ず行うようにということはぜひともしっかりと伝えて、確実なものにしていってください。

それで、先ほど、計画にのっとった訓練はどのようなかといったときに、幾つかの自主防災会では要支援者の避難訓練をやったところがあったとありましたけれども、それはどんなようなことを行ったのでしょうか。

◆19 番（山下いづみ 議員） そのようなことを、広報でもいいし、回覧板でもいいし、自主防災会では要支援者への避難支援はこのようなことをした例を周知していただければ、まだやっていないところが、こういうことが避難訓練になるんだとわかると思いますので、お願いします。

集合ということで、避難場所に行くまでに、つえをついたり、時間がかかってもゆっくり歩いてくる人たちがいますけれども、実際にもしこういうことがあったときに、つえをつくとか、座っていたら立つのに時間がかかるとか、小さい子どもが複数いる人とかがいますと、それぞれ違いますよね。今は避難訓練だから、何時までに避難場所に集合してくださいといって集合しますけれども、緊急時には、集合してくださいという場合ではなく、本当にそれぞれに自力で行かなければいけないということになります。そういうときにどうしたらいいのかわからないということが多いと思いますので、実際にやっているところの事例をぜひ周知していただきたいと思います。よろしくお願いします。

また、富士市では、しっかりと計画も立てまして、キットを中心に防災、減災をしていくということでわかりましたけれども、要支援というのはそれぞれ違う、また、いつもは大丈夫だけれども、ちょっと違った状況になったら変化についていけなくてパニックになるということは多々あると思います。そういう状況についていけない人、また、小さい子を持つ親、外国の人たちと色々な形があると思いますけれども、そういう人たちを一人も残さずにしっかりと避難ができる、そして、右側に住んでいる人、左側に住んでいる人たちが手助けできるような、支援できるような状況をぜひこれからもつくっていただきたいと思います。

私の質問は終わりにいたします。